

他誌掲載論文 (所属については論文投稿時のものを記載した。)

加工食品中の残留農薬分析及び放射線照射検知の  
精度管理体制の構築に関する研究

尾花裕孝\*<sup>1</sup> 菅原隆志\*<sup>2</sup> 上野英二\*<sup>3</sup>  
山下浩一\*<sup>4</sup> 神藤正則\*<sup>5</sup> 久野恵子\*<sup>6</sup>  
佐々木珠生 宅間範雄\*<sup>7</sup>

厚生労働科学研究費補助金(食品の安全確保推進  
研究事業) 検査機関の信頼性確保に関する研究,  
平成 25 年度総括・分担報告書, 41~79, 2014

アジアを含む諸外国では食品の殺菌等を目的に,  
国内で禁止されている食品の放射線照射が実施さ  
れている。香辛料等農産物については検疫所で検  
査されているが, その加工食品については対象と  
されていない。本研究は, 加工食品の原材料照射  
の検知において, アルキルシクロブタノン類を検  
知指標として選び, 照射の有無を確実に区別でき  
る精度管理体制の構築を目的とする。平成 24 年度  
に開発された簡便かつ精度が高い分析法を用い,  
地方衛生研究所の協力を得て幅広い加工食品を用  
いた外部精度管理試験が実施された。

照射履歴の判定に関して, 参加した全機関が適  
正に回答した。

カンピロバクターの型別方法の検討と分離菌株  
の特徴

甲斐明美\*<sup>1</sup> 五十君静信\*<sup>2</sup> 今野貴之\*<sup>3</sup>  
山田和弘\*<sup>4</sup> 田口真澄\*<sup>5</sup> 田内敦子  
野村恭晴\*<sup>6</sup> 福祉山郁恵\*<sup>7</sup> 横山敬子\*<sup>1</sup>

厚生労働科学研究費補助金(新型インフルエンザ  
等新興・再興感染症研究事業) 国内の病原体サー  
ベイランスに資する機能的なラボネットワークの  
強化に関する研究 平成 25 年度総括・分担研究  
報告書, 33-38, 2014

7 カ所のカンピロバクターレファレンス支部セ  
ンターで, 2012 年にヒトから分離された *C.*  
*jejuni*265 株について Lior 法および Penner 法に  
よる血清型別を実施した。その結果, Lior 法では  
265 株中 213 株(80.4%), Penner 法では 260 株中  
130 株(50%)が型別された。Penner 法による型別  
率が低い原因を検討したところ, B 群血清の抗体  
価の低い可能性が示唆された。2012 年分離のキノ  
ロン耐性率は, *C. jejuni* では 47.7%, *C. coli* で  
は 60%であった。EM 耐性率は *C. jejuni* では 1.1%,  
*C. coli* では 20%であった。

---

\*1: 大阪府立公衆衛生研究所

\*2: 岩手県環境保健研究センター

\*3: 愛知県衛生研究所

\*4: 奈良県保健環境研究センター

\*5: 堺市衛生研究所

\*6: 和歌山県環境衛生研究センター

\*7: 高知県衛生研究所

---

\*1: 東京都健康安全研究センター

\*2: 国立医薬品食品衛生研究所

\*3: 秋田県健康環境センター

\*4: 愛知県衛生研究所

\*5: 大阪府立公衆衛生研究所

\*6: 山口県環境保健センター

\*7: 熊本県保健環境科学研究所

Evaluation of the Culture Method NIHSJ-02  
Alternative to ISO 10272-1:2006 for the Detection of  
*Campylobacter jejuni* and *Campylobacter coli* in  
Chicken: Collaborative Study

Yoshika Momose\*<sup>1</sup>, Yumiko Okada\*<sup>1</sup>, Hiroshi  
Asakura\*<sup>1</sup>, Tomoya Ekawa\*<sup>1</sup>, Kazuya Masuda\*<sup>1</sup>,  
Hideaki Matsuoka\*<sup>2</sup>, Keiko Yokoyama\*<sup>3</sup>, Akemi Kai\*<sup>3</sup>,  
Shioko Saito\*<sup>4</sup>, Reiji Hiramatsu\*<sup>5</sup>, Masumi Taguchi\*<sup>6</sup>,  
Katsuyuki Ishimura, Kiyoshi Tominaga\*<sup>7</sup>, Shunsuke  
Yahiro\*<sup>8</sup>, Masahiro Fujita\*<sup>9</sup>, Shizunobu Igimi\*<sup>1</sup>  
Collaborators: K. Aikawa, N. Asai, M. Furukawa, S.  
Harada, Y. Inoguchi, F. Itoh, T. Konno, M.  
Matsumoto, R. Saito, M. Sato, T. Wada, K.  
Yamaguchi, A. Yoshida

J. AOAC Int., 96(5), 991-997, 2013

For the surveillance of the prevalence of  
*Campylobacter jejuni* and *Campylobacter coli* in raw  
chicken products in Japan, a qualitative method,  
National Institute of Health Sciences Japan  
(NIHSJ)-02, was developed as an alternative to  
International Organization for Standardization (ISO)  
10272-1:2006. Fifteen laboratories participated;  
each examined 48 minced chicken samples consisting  
of test samples uninoculated, inoculated with *C.*  
*jejuni* at a low or high level. NIHSJ-02 showed better  
performance than ISO 10272-1:2006 with regard to  
the selective detection of *C. jejuni* and *C. coli* in  
chicken.

\*1: National Institute of Health Sciences

\*2: Tokyo University of Agriculture and Technology

\*3: Tokyo Metropolitan Institute of Public Health

\*4: Akita Prefectural Research Center for Public  
Health and Environment

\*5: Aichi Prefectural Institute of Public Health

\*6: Osaka Prefectural Institute of Public Health

\*7: Yamaguchi Prefectural Institute of Public Health  
and Environment

\*8: Kumamoto Prefectural Institute of Public Health  
and Environmental Science

\*9: Gunma Meat Inspection Center

2013年に広島市で分離した腸管出血性大腸菌  
026(VT1産生)株の分子疫学的解析による検討

田内敦子 児玉 実 築地裕美  
佐多俊子 石村勝之

厚生労働科学研究費補助金(新型インフルエンザ  
等新興・再興感染症研究事業)病原体解析手法の高  
度化による効率的な食品由来感染症探知システム  
の構築に関する研究 平成25年度総括・研究分担  
報告書, 133-137, 2014

2013年に広島市で発生した腸管出血性大腸菌  
026(VT1産生)感染症事例9件11株について、分  
子疫学的解析法であるパルスフィールドゲル電気  
泳動法(PFGE)を実施し、事例間での疫学的関連性  
について検討した。その結果、いくつかの事例で  
疫学的関連性が疑われたが、感染経路の特定には  
至らなかった。またPFGEとは異なる分子疫学的解  
析手法である Multi-locus variable-number  
tandem repeat analysis (MLVA)を実施し、その解  
析結果を比較したところ、PFGEで類似度が高い菌  
株はMLVAでも結果が一致しており、026のMLVA  
がPFGEと同程度の型別能を有し、集団事例内や散  
発事例間での疫学的関連性を迅速に検討する材料  
となる可能性が示唆されたが、今後さらなるデー  
タの集積が必要である。

市販生カキからの胃腸炎ウイルス検出状況

山本美和子 田中智之\* 田中寛子

藤井慶樹 京塚明美 石村勝之

厚生労働科学研究費補助金(食品の安全確保推進  
研究事業)食品の病原ウイルスの検出法に関する  
研究 平成25年度総括・研究分担報告書, 153-160,  
2014

2013年2月に購入した市販生カキ5ロットにつ  
いて胃腸炎ウイルスの検索を行った。その結果、  
ノロウイルスが最も多く、4ロットから検出され  
た。次いでアストロウイルスが3ロット、サポウ  
ウイルスが2ロット、アデノウイルスが1ロットか  
ら検出された。

ノロウイルスGII/4が検出された株は、すべて  
GII/4 Sydney 2012変異株であった。

\*: 堺市衛生研究所